

| | | | |
|--|--|----------------|------|
| 科目名 | | 産業精神保健学論文指導 | |
| 科目責任者 | 江口 尚 | (産業精神保健学 教授) | |
| 担当者 | 井上 彰臣 | (IR推進センター 准教授) | |
| 担当者 | 真船 浩介 | (産業精神保健学 講師) | |
| 開講時期: | 2年次 | 単位数: | 6 単位 |
| <p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>論文作成を通して、産業精神保健の目的、諸概念、活動の現状や広がり、課題を理解し、それを実務に活かせる応用力を修得する。産業保健スタッフチームのリーダーとして、科学的根拠と現場の顕在的・潜在的ニーズ及び経済社会のマクロ環境の変化の影響、対応を踏まえた産業精神保健活動を計画し、実践する力を身につける。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 産業精神保健領域の自らの研究課題を明確にすることができる。 2) 自らの研究課題の意義を産業精神保健学の中に位置づけることができる。 3) 多彩な統計手法を駆使し、かつその結果を適切に解釈できる。 4) 得られた結果の持つ意義について、過去の知見を援用して、論理的に説明できる。 5) 論理的に、かつ平易な表現で、考察を組み立てることができる。 6) 用語・言い回しについて、適切な選択ができる。 7) 得られた結果を図表等を用いて、わかりやすく表現できる。 8) 数多くの既存論文から、正確かつ適切な引用を行うことができる。 9) 論理的、かつ平易な表現で考察を組み立てることができる。 10) 標準的な論文の構成を踏まえ、研究の主旨をわかりやすい形でまとめることができる。 11) 自らの論文の強み、限界について、客観的に評価を行うことができる。 12) 自らの論文をもとに、その領域の課題、今後の自らの研究の方向性を論じることができる。 13) 自らの論文もたらす社会的影響について考察し、論じることができる。 14) 得られた知見の実際の産業保健活動における適用、応用に関して適切な議論ができる。 15) 企業の社会的責任としての産業保健倫理について論述することができる。 | | | |
| ● 評価方法 | 論文作成プロセスにおける討論20%、発表20%、作成された論文60%で、総合的に評価を行う。 | | |
| ● 参考文献 | 指導の過程で必要に応じ紹介する。 | | |

● 授業内容

| 内容 | 担当教員 |
|---|----------------|
| 大学院生が選択した研究テーマに対して、統計的手法も用いて多角的に討論し、問題点を明らかにする。 | 江口 井上 真船 |
| 論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に指導する。 | 江口 井上 真船 |